



Unify NXJ 新機能と変更点

Release 12

© 2002-2008 Unify Corporation All rights reserved. Sacramento California, USA

No part of this tutorial may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language or computer language, in any form or by any means, electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, manual or otherwise without the prior written consent of Unify Corporation.

Unify Corporation makes no representations or warranties with respect to the contents of this document and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Further, Unify Corporation reserves the right to revise this document and to make changes from time to time in its content without being obligated to notify any person of such revisions or changes.

The Software described in this document is furnished under a Software License Agreement. The Software may be used or copied only in accordance with the terms of the license agreement. It is against the law to copy the Software on tape, disk, or any other medium for any purpose other than that described in the license agreement.

The Unify Corporation Documentation Group values and appreciates any comments you may have concerning our documents. Please address comments to:

doc@unify.com

1-800-24UNIFY or 1-800-GO-UNIFY; (916) 928-6400
FAX (916) 928-6401

UNIFY and DataServer are registered trademarks of Unify Corporation. Unify NXJ is a trademark of Unify Corporation. Java and J2EE are registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries. JReport is a trademark of Jinfonet Corporation. IBM, Lotus, Lotus Notes, Cloudscape, and WebSphere are trademarks of International Business Machines Corporation in the United States, other countries, or both. CAS AHL Technology and ecKnowledge are registered trademarks of CAS AHL Technology, Inc. in the U.S. and other countries. All other products or services mentioned herein may be registered trademarks, trademarks, or service marks of their respective manufacturers, companies, or organizations.

Name: What's New in Unify NXJ

Release: UNIFY NXJ 12

Last Revision: January 23, 2009 2:55 pm

Unify NXJ 新機能と変更点

Release 12

コントロールセンタの削除

複雑にならないNXJアプリケーションの配備のために、NXJコントロールセンタは、削除されました。NXJ12以前のリリースでは、NXJアプリケーションをアプリケーションサーバに配備するために、最初にNXJコントロールセンタを配備して、次にNXJコントロールセンタを経由してアプリケーション ear を配備する必要がありました。殆どのアプリケーションサーバ管理者は、このモデルを活用しておらず、また、コントロールセンタの配備が成功しなかった際にデバッグすることが難しいことが分かりました。従って、NXJ 12 と NXJ の今後のリリースのためにコントロールセンタを削除しました。

NXJ ActiveReporting の更新

NXJ Report デザインとサーバをリリース 8.2 に更新しました。これは、メジャー新リリースであり、新しく効果的なランタイムレポート分析を含んでいます。

注： 詳細については、NXJ ActiveReporting マニュアルを参照してください。

日本では、この機能はサポートされていません。

jdk Release 1.5.0_13 へ更新

NXJ に 1.5.0_13 へ更新された jdk が含まれます。

Release 11.7/Composer

JBoss の変更された デフォルトコントロールセンタデータベース

NXJ 11.7 以前のリリースでは、JBoss のデフォルトコントロールセンタリポジトリデータベースとして、cloudscape を使用していましたが、NXJ 11.7 より、sqlbase データベースを使用しています。このデータベースは、もともと Gupta 社により作成されていましたが、この会社はその後 Unify 社によって取得されました。Unify NXJ Composer を使用している場合、コントロールセンタリポジトリで使用されるデータベースとして、cloudscape は存在します。

Linux 上で動作する NXJ アプリケーションデザイナー

NXJ 11.7 より、NXJ 開発者は、NXJ アプリケーションを作成するために Linux プラットフォームの以下の環境で使うことができます。

- Linux AS/ES 4
- RedFlag WorkStation 5.0

Release 11.6/Composer

全ての Java アプレットの削除

製品から Java アプレットの全てを削除して、それらを AJAX コンポーネントに変更しました。

フレームセット使用の削除

“フレームセット”の全ての使用を削除して、最先端の AJAX コンポーネントに置き換えます。

フォームが大きくて複雑な場合、この機能は、ローディングスピードの重要な性能改善を提供するだけでなく、どんなフレーム制限も取り除きます。この機能は、先行入力、リッチテキストエディタ、ダイナミックリストボックスとノートブック遅延ローディングを含みます。

カスタムデータソースセキュリティのプロバイダ

LDAP と Active Directories の既存のサポートに加えて、セキュリティプロバイダとして、カスタムデータベースを構成できるようにしました。

更新されたリーポータリング製品

JInfonet OEM リーポータリングソリューションを最新の利用可能な 7.3 リリースに更新しました。

Lotus Notes 改良点のインポート

重要な Lotus Notes インポートの改良と言語サポート

Lotus Notes データベースの同調

アプリケーションを再インポートすることなく、Lotus Notes データベースに同期できるようにしました。

これは、顧客が変換して、アプリケーションとデータベースを移行し、開発とテストを終え、次にデータが確実にカレントになるようにデータを再インポートしてください。

Release 11.5/Composer

以下のリストは、Unify NXJ 11.5/Composer に追加および更新された機能の一覧です。

Lotus Notes マイグレーション

Unify NXJ を活用して、Lotus Notes 開発者は既存の Lotus Notes アプリケーションを J2EE プラットフォームに簡単に移行することができます。この移行を行うことで、膨大なプログラミングを行うことなくオープン技術への対応とスケーラビリティが実現されます。

Unify NXJ が移行プロセスを自動化し、かつ、Lotus Notes 開発者が慣れ親しんでいるグラフィカルな開発環境での機能豊富なワークフロー構築、対話型のインタフェースフォーム構築、リレーショナルデータベースとの容易な統合を可能にします。Unify NXJ が持つ組み込みのコンポーネントにより、リッチテキストフィールドやビューやダイアログフィールドといった良く使用される部品をドラッグ&ドロップで簡単に実装できます。Unify NXJ はフォーミュラ言語と普通のフォーマットの Lotus スクリプトやリーダーフィールドによる Lotus Notes ドキュメントレベルセキュリティのサポートもインポートします。

Unify NXJ は、Casahl Technology 社の ecKnowledge Composer のオプションインストールに対応しています。ecKnowledge Composer は、Lotus Notes データベースとリレーショナルデータベースの間の双方向の同期を行うウィザードベースのツールで、Unify NXJ での Lotus Notes から J2EE への移行を更に容易にします。

ActiveSecurity

Unify NXJ の ActiveSecurity は、オプションとしてインストールできるコンポーネントになりました。これにより、顧客の指定するセキュアな環境でのアプリケーション開発、配備が可能となりました。

ActiveSecurity は、リーダーフィールドを介してレコードレベルセキュリティを含んでいます。レコードレベルセキュリティは、開発者に user、group または role に基づくデータベーステーブルベースの特定の列を確保することを可能にします。

アプリケーションデザイナー (Unify NXJ Composer)

アプリケーションデザイナーは、従来のフォームアプリケーション開発機能の強化と Lotus Notes マイグレーション機能の追加がなされました

強化内容

11.5/Composer では、以下の機能が追加および改善されました。

機能	概要
ブラウザパネル > プロパティタブ強化	グループ化されたプロパティを展開したり折りたたんだりすることができるようになりました。
埋め込みデータベース強化	Unify NXJ のデフォルトのデータベースが Pointbase から IBM Cloudscape/Derby に置き換えられました。Cloudscape は、実行時のライセンスが必要の無いオープンソースのデータベースです。
データベース接続ウィザードに Cloudscape/Derby と Lotus Notes データベースを追加	Cloudscape/Derby および Lotus Notes データベースをデータソースとして使うことができるようになりました。
新規コントロール：繰り返し領域ビュー	複数行のエントリと階層構造のメッセージ/応答関係を表示できる読み込み専用のグリッドです。Unify NXJ View は、Lotus Notes ビューをレプリケートします。
新規コントロール：リッチテキストフィールド	リッチテキストフィールドは、フォーマットテキスト、リンク、イメージや添付をサポートする編集可能なフィールドです。
新規コントロール：ダイアログフィールド	選択可能なオプションのダイアログを表示するボタン付きテキストフィールドです。各項目を Ctrl+ クリックすることで複数選択できます。
コントロール機能強化：リストボックスとドロップダウンリストボックス	リストボックスで複数選択ができるようになりました。各項目を Ctrl+ クリックすることで複数選択できます。
コントロール機能強化：ボックス	ボックスを使って、フォームの一部を動的に隠したり表示したりすることができるようになりました。ボックスの中にある全てのコントロールが隠されたり表示されたりします。

バックグラウンドプロセス	バックグラウンドプロセスとして実行できる Web サービスを指定できるようになりました。バックグラウンドプロセスは、ロールにマップされ、そしてそれは、デプロイヤーや管理者が、プロセスが実行するユーザを決めることに利用することができます。
データサービス作成ウィザードの強化	データサービス作成ウィザードで、セミコロンをセパレータにして複数のテーブルを指定できるようになりました。複数のテーブルが指定された場合には、アプリケーションデザイナは、複数テーブルのデータサービスを作成します。
ドキュメント	ドキュメントがより見やすく再構成されました。以下のガイドが追加されました。 <ul style="list-style-type: none"> • glossary • Migrating Lotus Notes Applications • Securing NXJ Applications <p>内容は、『管理者ガイド』と『開発者ガイド』から抜粋されています。</p> <p>以下のガイドは内容が改善されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理者ガイド • 開発者ガイド • アプリケーション起動パラメータの使い方 • Web サービスチュートリアル

Release 11

以下のリストが NXJ11 における機能強化および変更点です。

機能名

機能の名称を以下のように変更いたしました。

旧名称	新名称
BPM	ActiveWorkflow
WASP	ActiveSOA
NXJ Reporting	NXJ ActiveReporting

ActiveSecurity

ActiveSecurity は、すべての NXJ アプリケーションコンポーネントの保護とユーザプロフィールデータへのアクセスに関する共通のインフラを提供しています。それに加え

て、NXJ 11 が提供するセキュリティエージェントは、既存の LDAP ディレクトリや Active Directory セキュリティデータベースとの統合や NXJ コンポーネント間でのシングルサインオンによる認証といった機能を提供します。また、NXJ のセキュリティモデルは、従来の J2EE セキュリティ仕様を拡張して、フォーム、ビジネスモデル、レポート、データアクセスといったアプリケーションにとって重要なリソースのセキュリティ管理を行うためにグループ、ロール、ユーザの設定をできるようにしました。

NXJ 11 を使用すれば、開発者は、アプリケーションセキュリティの機能を使って不正なアクセスからアプリケーションのリソースを保護することができます。一般的には、これには技術的に詳細なコーディングが必要になるセキュリティ機能を利用することになりますが、NXJ では、非常に簡単な方法でアプリケーションリソースの厳密な制御が可能になります。

ユーザに割り当てられたロールに基づいてコマンドの使用可否を指定できます。具体的には、そのコマンドのロール一覧のプロパティに使用できるロールを 1 つあるいは複数指定します。例えば、“Manager” ロールが請求の承認を行うことができるように設定すると、Manager の場合はそのボタンは Visible になってアクセスができるようになります。しかしながら、“Employee” ロールではアクセスできないのでボタンは Invisible になります。これを次のような簡単な宣言文で行うことができます。

```
(If role = Employee then invoice_button invisible)
```

この短い宣言文は、かなり抽象化されたレベルでなので、LDAP や Active Directory セキュリティデータベースとやり取りするような詳細なコーディングは必要ありません。NXJ 11 が複雑な部分は吸収するので、開発者はビジネスの付加価値を生む部分に集中することができるようになります。

これらの機能は、Lotus Notes のセキュリティモデルに似ています。

SOA

NXJ 11 はサービス指向アーキテクチャ (SOA) をサポートするようになり、Web サービスのサポートが強化されました。NXJ 開発者は、自身の Web サービスを作成したり、サードパーティの Web サービスをインポートしたり、それらのサービスを NXJ アプリケーションに組み込むことができるようになりました。新規の SOA サポートにより、複数の Web サービスを組み立ててより大きく複雑なアプリケーションを構築することが可能となりました。アプリケーションデザイナを使って、単一のプラットフォーム上で Web サービスの作成、利用、オーケストレーション、管理ができます。

以前は、複雑なアプリケーションを Web サービスを活用して構築するには沢山のツールが必要でした。今では、NXJ により、単一のプラットフォームで Web サービスの作成、利用、オーケストレーション、管理ができます。NXJ ウィザードを利用すると、埋め込み SQL や null を持つことができる変数といった NXJ の特長を生かした Web サービスを簡単に定義することができます。

具体的には、アプリケーションデザイナを使ってサービスを開発し、簡単操作で Web サービスを配備します。これにより、開発者は 1 つのツール上ですべてができ、NXJ プログラミング言語をサポートするような Eclipse の利用にまで広げるような面倒を避けることができます。

アプリケーションデザイナー

アプリケーションデザイナーは、アプリケーションの開発をより簡単に行えるように機能強化されました。新規のセキュリティ機能は、配備されるアプリケーションリソースの保護に役立ちます。新規のウィザードは、テーブル、BPM プロセス、Web サービス、Java クラス、Web サービスのインポート等からフォームを自動的に構築して、NXJ アプリケーションプロジェクトにデータサービスを作成することができます。

オンラインドキュメント

NXJ ドキュメントは、ユーザ指向のオンラインヘルプシステムを通してアクセスできるようになりました。目次タブに、すべての NXJ ドキュメントがブックあるいはページとして一覧されています。このドキュメントは、旧リリースの "Welcome To the Unify NXJ Documentation" と同様な形式で作られています。索引タブでは、このヘルプシステム内の重要なコンテンツに直接ジャンプできる索引を用意しています。検索タブでは、全ドキュメントを通してのキーワード検索を行えるようにして、その検索結果を関連性でランク付けして表示します。また、特定のブックに絞り込んで検索を行うこともできます。すべてのトピックにおいてそのドキュメントの PDF 版へのリンクが用意されています。

オンラインヘルプは、NXJ ドキュメント CD と Unify Web サイトの両方から見ることができます。

主な機能強化内容

以下の機能強化が Release 11 になされました。

機能	説明
NTLM シングルサインオン (SSO)	NXJ は、Internet Explorer によって受け渡される Windows 証明書を使って Windows ドメインでの認証を行います。
GO TO FORM コマンド	指定されたフォームに移動することのできる新規のコマンド
look & feels の追加	NXJ は、NXJ アプリケーション開発者に 3 つの look and feel を提供します。 Default - XP のような look and feel Silver - 銀色基調の XP のような look and feel Flat - タブやメニューのようなインタフェースエレメントが平板な背景で 2 次元に見える look and feel
自動リネーム	フォームやコンポーネントの名前を変更した時に、NXJ は自動でそのフォームやコンポーネントを参照しているコードの名前を変更します。

機能	説明
エディタ強化機能の使用の指定	<p>開発者は、アプリケーションデザイナーの以下の機能強化を、パフォーマンス向上のために使用しないように指定することができますようになりました。</p> <p>Java メソッド、変数、インナークラス自動補完機能のアウトラインツリー</p> <p>Go-to 定義と go-back コマンド</p> <p>コードタイプ時のリアルタイム エラーチェック</p>
ベースクラス関連	<p>開発者は以下のベースクラスを開くことができるようになりました。</p> <p>サブクラス化されたフォーム</p> <p>再利用可能なコンポーネントインスタンス</p> <p>再利用可能なボックス、データビュー、その他のコンポーネントなどの一部品である 1 つのフィールド</p>
ブラウザパネルのフォーカスを保持	アプリケーションデザイナーのブラウザパネル内で選択されたノードへのフォーカスは、コンテンツパネルでどのコンポーネントが表示されているかにかかわらず保持をする。
整列コマンドの強化	複数のコンポーネントを選択して、右クリックで一度に整列ができるようになりました。
全てを閉じる	プロジェクト自身を閉じることなく、開いているすべてのコンポーネントを 1 つのコマンドで閉じることができるようになりました。
イメージのプレビュー	プロジェクトのイメージをプレビューできるようになりました。
BPM ポリシーに NXJ Java クラス指定	アプリケーションデザイナーで作成した Java クラスを BMP デザイナーで使用できるようになりました。
パーセンテージに基づくレイアウト	パーセンテージに基づく位置決めとサイズ処理を使用できるようになりました。
フォームの遷移	ターゲットフィールドを持たないフォームで画面遷移を止めることができるようになりました。
サブクラス化の操作単純化	フォーム、アクティビティフォーム、コンポーネントのサブクラス化の操作が、Ctrl+Shift を押下しながらベースクラスを選択してからそれを必要な場所にドラッグ&ドロップするだけでできるようになりました。
再帰的な初期チェックイン	この機能は削除されました。
テスト検索	クエリエディタのテストボタンを使って、デザイン時にクエリのテストを行うことができるようになりました。

機能	説明
レポート生成のクエリポップアップ	新規のレポートを作成するときに、アプリケーションデザイナーがプロジェクト内のレポートカタログから既存のクエリの一覧を表示し、そこから選択できるようになりました。(日本語環境ではサポートしていません。)
MS SQL サーバの dbname	データベース接続ダイアログで、MS SQL サーバとの接続を作成するときにはデータベース名を表示するようになりました。
タブの上下移動	エレベータ表示のタブでタブの上下移動ができるようになりました。これは、通常のタブ表示におけるタブの左右の移動と同様のコマンドになります。